

科目名		健康開発科学特論	
科目責任者		姜 英 (健康開発科学 講師)	
開講時期:	1年次後期	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>健康診断の実施計画からその事後措置までの一連の流れについて知識や健康保持増進のための知識を整理し、現場で応用できるようにする。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般および特殊健康診断の種類と意義を理解し、健康診断を企画する際の留意点を整理する。</li> <li>2) 健康診断に採用されている項目の有効性について考える。</li> <li>3) 労働者の健康診断結果について個人情報保護に関する注意点を理解する。</li> <li>4) 一般健康診断の流れについて理解する。</li> <li>5) 健診結果に基づく判定区分と事後措置の基本的な考え方を理解する。</li> <li>6) 改正健康増進法に基づく職場の喫煙対策の推進方法を理解する。</li> <li>7) 有害なガスに起因する健康障害を防止する対策を立案し、実行できるようにする。</li> <li>8) 産業保健の専門職として事業場における健康増進活動が実践できる知識を身につける。</li> <li>9) 産業保健の場における生活習慣病への対応およびその予防、健康増進の取り組みを理解する。</li> <li>10) 事業場等における健康増進活動の実際を知ることによって、健康増進活動を実践するための知識を身につける。</li> <li>11) 健康教育の企画方法、保健指導と禁煙指導の実施方法を確認する。</li> <li>12) 手軽にできる様々な運動やパートナーや仲間と協力しあって行う運動について体験することで、運動・スポーツがもつ本来の楽しさや面白さを理解し、職場での利用法や企画能力を習得する。</li> <li>13) 実際の健康増進活動を学習することで、問題点・課題を見出す。</li> <li>14) 体力測定を行い、年齢による体力の低下を理解し、個人に適した運動処方を行うことができる。</li> <li>15) 労働人口の高齢化が進む中での職場における健康保持増進の企画立案ができる。</li> </ol>			
● 評価方法	講義と実習の参加60%、討論20%、発表・レポート20%で総合評価する。		
● 参考文献	健康日本21(第二次)、エクササイズガイド(2013)、運動処方の指針(原書第8版)、改正健康増進法(2018)、職場における受動喫煙防止対策のガイドライン(2019)、エイジフレンドリーガイドライン(2020)、改正THP指針(2020)、その他講義の中で必要に応じ紹介するとともに、自ら検索する。		

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1・2	健康管理 I	健康診断の実施計画	姜
3・4	健康管理 II	健康診断の判定と事後措置	姜
5・6	健康管理 III	有害業務(酸欠、有毒ガス取扱)	姜
7・8	健康保持増進 I	健康開発科学総論	姜
9・10	健康保持増進 II	健康開発科学における非感染性疾患(生活習慣病)対策	姜
11・12	健康保持増進 III	事業場における健康増進活動の実際	姜
13・14	健康保持増進 IV	健康教育・保健指導の実際	姜
15・16	健康保持増進 V	職場で応用できる様々な運動	姜
17・18	健康保持増進 VI	職場における健康増進の介入研究の実例 I	姜
19・20	健康保持増進 VII	職場における健康増進の介入研究の実例 II	姜
21・22	THP実習 I	運動負荷テストの実践	姜
23・24	THP実習 II	運動機能テストの実践	姜
25・26	THP実習 III	運動処方作成	姜
27・28	THP実習 IV	健康増進プログラムの企画・立案(グループディスカッション)	姜
29・30	THP実習 V	健康増進プログラムの企画・立案(発表)	姜